



実践を変えるユニフィケーション

地域ケア総合センター長 西村 真実子

地域ケア総合センターは、本大学の「地域に開かれた窓口」として、公開講座をはじめとしたさまざまな講演会等を開催するとともに、医療・保健・福祉等の現場の要望に応じ、各種講演会や看護研究指導等に本学教員を講師として派遣してきました。これらの活動の多くは大学からの一方向性の働きかけで、継続的・相互的な取り組みが少なく、現場の役に立っているのか、現場の実情に応じたものであるかについては疑問が残されていました。

「実践を変えるユニフィケーション（地域・看護等の実践活動向上支援事業）」は、このような問題意識の基に、本年度からスタートした地域ケア総合センターの事業です。現場の看護職者等が感じている問題点や課題に対して、大学と現場の組織が緊密に連携し、その解決または成就に向けて共に活動し、現場のケアやケア提供システム等の向上をめざします。現在、金沢医療センター、金沢医科大学病院、安田内科病院、片山津温泉山の上病院の4機関に教員が出向いています。2～3年の後に、新しいケア等の説明書やマニュアルをその評価結果とともに示したり、あるいは現場の変化の過程をまとめることができたらと考えています。また、本取り組みの経験を通して、現場の士気を高め現場が変わっていく過程における、大学と現場の相互に刺激し支援し合う連携のすすめ方についても、より具体的に言語化できればと考えています。この事業をきっかけとし、現場や地域のエンパワーに少しでも役立つことができれば嬉しく思います。



目次

実践を変えるユニフィケーション	1	大学院領域紹介	5
大学の主な動き	2	看護デザイン分野	5
第6回入学式	2	コミュニティケア分野	5
開学記念日特別講演会	2	サークル活動紹介	6
オープンキャンパス	3	大学祭のお知らせ	7
夏期アメリカ看護研修に出発	3	図書館から	8
キャンパスライフ	4	地域ケア総合センターから	8
看護学実習	4	キャンパススケジュール 2005年度後期	8
フィールド実習	4		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部 看護学科・大学院 看護学研究所

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1

TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>

E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第6回入学式

4月6日に本学の平成17年度入学式が挙行された。開式の辞、国歌斉唱に続き、1年次学生83名、3年次編入学生9名、大学院生10名が、大鹿総務部長（知事代理）はじめとした来賓の方々、ご家族の皆さま、在学生や教職員に見守られる中、浅見学生部長による入学者氏名の読み上げ、そして入学者による宣誓。緊張の中にもこの日を待ち望んでいた入学生の声が初々しく講堂内に響き、広がった。また、新たな出会いと感動が始まる。そんな予感を感じさせる厳かな時間。金川学長の式辞は、本学の使命が県内各地域の保健・医療・福祉のニーズに応えられる人材の育成であること、それに向かって学業を積み重ねる努力が求められていること、そして、その力が広く世界にも通用する力として育てて欲しいとの願いが託されたものであった。

今年度入学生にも、音楽サークルによる祝福のコーラスが温かくそそがれた。この歌声は本学のセレモニーに欠かせなくなった。人が喜びや感動を分かちつのに、心をこめることの大切さに気づく。温かく迎えられた今日の感動を忘れないで欲しい。

時代は21世紀、情報化社会に生きる新しい看護師像がいかなるものであれ、看護職者が人の痛みや悲しみ、喜びをわが事として感じられ、ケアの受け手に自らのもてる力を差し出そうとする看護の本質にはなんら変わりはないであろう。まさに看護とは祝福された骨折り仕事（F. ナイチンゲールの言葉）、入学式の日、看護職者をめざす一人一人の道程が苦しくとも迷いのない日々であることを願っている。



開学記念日特別講演会

今年度5月30日の五月晴れの日、千葉大学看護学部教授正木治恵先生をお迎えして全学生を対象とした開学記念日特別講演会が開催された。開学以来6年目を迎え、大学院修士課程の学生も入れて全学年が揃ったことになる。早いようで、すでに6年の歳月が流れたことがひとしお感慨深い。

今年度は、若手研究者のリーダー的存在でもある正木先生に「看護実践におけるリサーチクエスションの持ち方」と題してご講演を頂いた。正木先生は冒頭に看護教育の大学化の流れを説明された上で、看護の高等教育化の成果は社会のヘルスニーズに応えることと話された。そのためには教育（人材育成）、研究（知の構築）、実践（質の向上）のバランスが求められることを強調された。なかでも、看護研究においては、実践と乖離するものではなく、米国の看護研究の第一人者ドナ・ディアールの言葉を引用されて「患者ケアに資するもの」、「看護の理論や知識開発に寄与するもの」、「看護師が直接関わってコントロールできる現象であること」を看護研究の条件として述べられた。また、看護現象は複雑な要素が絡み合い、看護の介入とその効果の因果関係が証明しにくいものであるがゆえに、自らのリサーチクエスションを洗練させ、看護現象への問いを明確にする必要性についてもご教示いただいた。卒業研究の真只中の学部生や修士課程2年の大学院生には多くの示唆を頂いたと思われる。

石川県においても看護の大学教育を受けた者への期待は大きく、本学の卒業生・修了生や教職員が取り組む研究活動がどのような貢献をもたらしてくれるか関心が寄せられている。まだ、歴史浅い本学では教育・研究の土台づくりに邁進する日々であったが、実践との連携の必要性を重視し、今後の取り組みが着実な成果として実るようさらなる努力が求められると考えさせられた日となった。



オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは7月17日（日）に開催しました。幸いなことに今年も200人を上回る参加者に恵まれ、盛会裏に終了することが出来ました。

受験生が大学選びのための情報を得る手段としては、直接・間接を問わず多くの方法があるにもかかわらず、毎年これだけ多数の参加者に恵まれるところにオープンキャンパスの醍醐味があるのでしょうか、各大学が競って趣向を凝らしたオープンキャンパスにしようとするのもうなずけます。

本学でも、主に看護系への進学を希望している学生諸君やその保護者の方々、また高校の先生方に広く本学のことを紹介し、進路を決める参考にしてもらいたいとの趣旨で、開学初年度から開催しています。その内容には年々工夫を凝らし、半日～1日という短い時間で大学の教育理念や実際の教育、学生生活などを知ってもらえるような企画を立てています。

今年も参加者と在学生、教職員の間で熱気に満ちた語りあい、ふれあいが見られ、公開講義・実習も盛り上がり、参加者にはおおむね本学への理解を深めてもらえたのではないかと考えています。私たちは来年以降も参加者の期待に応えられるオープンキャンパスを開催していきたいと思っています。



夏期アメリカ看護研修に出発

昨年に引き続き、去る8月30日、学術交流協定を結んでいるワシントン大学のあるワシントン州シアトル市に向けて参加者が出発しました。研修に参加したのは、19名（3年生13名、4年生1名、大学院生2名、教員3名）と、引率教員1名です。昨年の秋に行った研修参加の募集にはじまり、この1年間、プログラムが無事終了するように、国際交流委員会が中心となり、事前学習会、旅行社による研修オリエンテーション、保護者説明会などを開催してきました。また、学生たちは自分たちで英会話の学習も続けてきました。出発前に学内で壮行会が行われ、多くの教職員から激励を受け、参加者も研修に向けての抱負を語ってくれました。シアトルでの2週間にわたる貴重な体験を通して、参加者はきっと成長して元気に帰ってくると思います。帰国後の再会、報告会が楽しみです。



夏期アメリカ看護研修スケジュール

月 日	内 容
8/30(火)	成田発(機内泊)→シアトル着 大学寮チェックイン、歓迎パーティー
8/31(水)	研修オリエンテーション、英語レッスン、講義「米国におけるヘルスケアシステム」、ワシントン大学見学、ホストファミリー宅へ
9/1(木)	英語レッスン、施設見学「ワシントン大学病院」
9/2(金)	看護関係者による説明「アメリカにおけるホームケアと遠隔医療プログラム」、施設見学「ノースウエスト訪問看護サービス」、英語レッスン
9/3(土)～9/5(月)	ホストファミリーと過ごす
9/6(火)	英語レッスン、講義「精神看護/トラウマを持つ患者へのケア」、施設見学「ハーバービューメディカルセンター」
9/7(水)	英語レッスン、施設見学「キャンサー・ライフライン」、講義「がん患者と家族へのサポート・プログラム」
9/8(木)	看護関係者による説明「施設における高齢者看護」、施設見学・ケア実習「敬老ナーシングホーム」
9/9(金)	英語レッスン、ワシントン大学看護学部学生とディスカッション、終了式、マリナーズ野球観戦
9/10(土)	ホストファミリーと過ごす
9/11(日)	シアトル発(機内泊)
9/12(月)	成田空港着

キャンパスライフ

地域看護学実習



4年 福田 人味

地域看護では、妊婦、新生児から高齢者と様々な発達段階にある住民、様々な問題を抱える住民すべての健康を支える大きな役割を担っている。保健所や市町村の保健師がそれぞれ役割を分担し、住民の健康を支えている。地域においては、住民一人ひとりが健康に関心を持ち、自分たちで自分たちの地域を支えていくことが求められている。地域で働く看護職は、住民のニーズを的確かつ迅速に把握し、また、地域の特性をも合わせて、必要な支援を提供していくことが重要であり、住民の自主性を尊重し、活動がスムーズに進行し継続していけるように支援していくことが大切であると学びました。そのためにも、住民と専門職が協同し、安心して住みなれた地域で生活を送れる地域ケアシステムの整備が重要であると感じました。実習を通して、一つひとつの出会いを大切にし、住民の方の声をしっかり聴くことが大切であると学びました。様々な視点から判断し、住民や関係職種へ積極的に働きかけ、地域の健康を支えていける看護職を目指していきたい。

在宅看護学実習



4年 中川 さやか

私は、この実習で対象が必要としている援助が受けられるように、調整を行うことや対象の生活の場への訪問を行いました。実習では、必要な援助を提供することの難しさを感じると共に、在宅療養を支えていくための看護職が持つ役割の大切さを感じました。在宅療養では、療養者の思いと家族の思いのズレが生じることもあり、双方の思いを尊重しながらどのように援助を行えば良いのかを考え、対象が望む生活ができるように援助していくことが必要だと思いました。また、家族の介護に対する不安や負担は、日々変化する療養者や家族の状況に応じ変化していきます。そのため、状況に応じて対象が必要とする援助を捉え、少しでも不安や負担が軽減できるように援助内容の見直しや必要な社会資源の有効な活用が行われるよう様々な職種と連携を図り、関わっていくことが重要だと感じました。療養者や家族のこれまでの介護や療養生活を受容し、在宅療養が療養者や家族にとってより良いものとなるように関わることでできる看護に魅力を感じました。療養者が退院後も継続して援助が受けられ、住み慣れた場所で、その人らしい生活が送られるように看護者として支援できるよう成長していきたいと思います。

フィールド実習



1年 星野 夏樹

私は入学する以前からフィールド実習は“旅館”と心に決めていました。奇跡的(?)に大学に合格し、私を含めた4人はアコガレの加賀屋様で実習する機会を得ました。

お客様のお出迎えやお見送り、配膳の手伝いなどの体験を通して“お出迎えやお見送りのときの手の位置”にも意味があること、よりよいサービスを提供するために“お客様からのクレームを大切な情報として生かしていること”などを学びました。

私は、非常に結婚願望が強く、仕事も子育てもやりたいという希望から最初は旅館で働く女性たち(客室係様)の“日常生活と仕事の調和”に興味をもち実習に臨みました。しかし、客室係様のお話を聞くうちに、“相手の立場に立つために必要なことは何であろうか”という新しい問いが湧き上がってきました。その問いに対する答えは“身近な人(家族)との関わりを大切にすることなくして、相手の立場に立つことはできない”ということでした。私は看護職には豊富な知識と同時に“相手の立場に立つ行動”が求められていると考えています。相手の立場に立つための糸口を、私はこの実習を通して自分のものにすることができました。

フィールド実習



3年次編入生 新井 優

今回、私は加賀麩司宮田というお麩屋さんで実習をさせていただきました。「金沢らしさ」というテーマで実習に臨んだのですが、実習先ではテーマ以外のことも多く学ぶことが出来ました。しかし、私としては最も心に残ったのは実習中の学びもそうなのですが、実習前の実習先を決めるために色々歩き回ったことでした。このフィールド実習では自分達で実習先を決めなければいけません。その際、実習先の代表の方と交渉するのですが、とにかくこちらのやりたい事とその熱意を上手く相手に伝えないと交渉は上手くいきません。また、その方個人に熱意は通じても企業として実習の受け入れは難しかったりすること等色々なケースがありました。そういった事より実際はその企業での実習は出来なかったのですが、その少しの交渉の中でもその企業の方針とかこだわりを見て取ることが出来たので、実習先がなかなか決まらずあちらこちら歩き回った私にしてみれば学ぶ機会がたくさんあったかと思えます。また、炎天下の中を同じ実習メンバーと歩き回ったのは良い思い出となりました。

大学院領域紹介

看護学研究科(修士課程)看護学専攻

入学定員10名

看護学研究科看護学専攻は、2つの専門領域と5つの教育研究分野で構成されています。

健康看護学領域

看護
デザイン分野

コミュニティー
ケア分野

共通科目

実践看護学領域

子どもと
家族の
看護学分野

老年
看護学分野

成人
看護学分野

看護
デザイン分野

看護デザイン分野

看護デザイン分野は、人間のケアを目的とする看護学固有の理念のもとに、看護学の構成要素として考えられる人間と環境相互のよりよいあり方を探求し、新しい看護を構成するためのデザインに関連する内容を取り扱う分野である。つまり、看護ケアに必要なハード面、ソフト面にわたってさまざまな提案が出来るのと良いと考えている。

具体的には人間の食生活が健康の基本とされながら、食に関する看護ケアには新しい提案が少ない、清潔保持や心身のリラクゼーションに大きな効果をもたらす入浴ではありながら療養者の入浴方法の選択肢はそれほど広がりを見せていない、高齢の認知症の方々が環境変化に伴って混乱が少なくないが、この方々にとって落ち着ける住環境とは・・・等々、このように、今日の看護ケアの中でユーザーとケア提供者の間でギャップを感じる現象は少なくない。また、ケアのエビデンスを実践の場に情報提供する役割も十分果たされているとはいえない。看護デザイン分野は、始まったばかりで十分な成果として示せるものは、まだ十分ではないけれど、当面は人間の基本的ニーズである食や清潔、活動、休息、住環境などをテーマとしてケアの質的向上に寄与する研究を進めていきたいと考えている。

看護の視点から実践上の疑問を丹念に問いかけ、研究テーマとして深め、さまざまな手法で新しい提案ができる力を培いたいと考えている。未来の看護デザイナーを夢見て・・・。



コミュニティー
ケア分野

コミュニティーケア分野

コミュニティーケアは地域で生活している人々の健康とQOLの向上に寄与する看護活動の領域である。一般的には保健所や市町村（保健センター）等で一定の地域の住民を対象に展開する健康増進や予防に主眼をおいた保健活動と、在宅で療養している人々を対象に訪問看護ステーション等で行う訪問看護活動である。また、企業で働いている人々を対象にした産業看護や学童や生徒を対象にした学校保健の分野も網羅した幅広い分野である。

これらの分野では現在、看護師や保健師の資格で活動を行っているが、地域住民のニーズの多様化、在宅療養者のニーズの複雑化・多様化や在宅医療の進歩に伴い、さらに専門的な知識や技術が要求されるようになってきている。それに対応できるように、コミュニティーケアの領域を大学院において設定している。またあわせて、地域看護の専門看護師の教育カリキュラムも包含し、実践的活動に連ねるような教育・研究を発展させたいと考えている。



サークル活動紹介

音楽サークル

3年 佐々木 亮

私たち音楽サークルは、合唱を中心にさまざまな場で演奏活動を行っています。看大祭での演奏はもちろん、入学式や卒業式などにも出演させていただいています。

1年を通しての活動の中心は2年生です。活動日は特定の曜日は決まっていますが、数あるイベントの前に集中して練習に励んでいます。約20人という少人数ではありますが、全学年にわたってメンバーがいるので、それぞれの学年で予定が異なり練習日に全員が揃うことは難しい状況です。しかし、やると決めたことはメンバーそれぞれがきちんと取り組むので、今までこうしてたくさんの場で活動してこられています。また練習を通して、後輩は先輩から何かと教わるのがあったり、先輩は後輩の若いエネルギーを吸収するなど、日々互いにより刺激を与えています。

こんな私たちですが、メンバーの大半は大学に入るまで音楽活動未経験者です。しかし皆歌うことが大好きで、晴れた日には屋外で歌ったり、少人数でアカペラグループを作ったり、一年生同士で好きな曲の合唱練習に取り組んだり、楽しんで活動しています。

私たちの活動をより多くの人に知っていただくために、これからもさまざまな音楽に挑戦し、演奏の機会を増やしていきたいと思っています。



With Community サークル

3年 鮫島 真理恵

With Communityサークルでは地域の方々や先生方、また学生が協力し合って一緒に活動をしています。月に一度「歴史を語る会」を開き、地域の方々のお話を聞いたり、郷土料理を作ったりしながら、高松の歴史を学んでいます。歴史を語る会と言っても堅苦しいものではなく、気軽に参加できます。時には、高松の方言についてお話を聞き、学生の出身地の方言と比べてみたり、各世代の結婚観や高松の海岸の現在と昔の違いなどについても話し合うことができました。また、おはぎを作ったり、高松の昔からのおやつとして食べられていた芋団子を再現して作ってみたり、高松の特産物である葡萄を狩りに行ったこともありました。

月に一度の集まりを通し、地域に住む方々と知り合い、高松の昔と今の姿を知り、どんどん地域の中に溶け込み石川県立看護大学が地域の一部になっていくことが、とても楽しく、また嬉しく思っています。これからも、大学で4年間過ごすこの高松の魅力を知り、より地域の中に溶け込み、地域の一部となって活動をしていきたいと思っています。

ぜひ一度覗きにきてみてください。

自治会活動(私達の大学作り)

自治会長 2年 磯見 冴子

皆さんは自治会にどのようなイメージを持っていますか？

現実、「自治会ってどんな活動しているの？」と尋ねられることがほとんどです。私も当初は自治会の活動内容もよく知りませんでしたし、組織というものに堅苦しいイメージを抱いていました。しかし、一年次に自治会役員として同級生や先輩方とさまざまな活動を通して、活動自体もそうですが、みんなで何かをつくりあげていくことに楽しさや喜びを感じ、今年度の自治会長になる事を決めました。

最初は、自治会長となったからには、自分が全てを受け止めなければいけないと、常に肩肘張っていて、それゆえに失敗することも、自分は会長の器ではないと落ち込むことも度々ありました。そんな逆境の中での先輩方のアドバイスや、副会長をはじめとする役員の方々の協力、友達からの励まし、先生方からの支えを受けながら、「自治会はみんなでつくりあげていくもの」という事を痛感しました。自治会長を務めさせていただいて、本当によかったと思っています。

また、自治会長になったことで、友人から大学への要望や、イベントのアイデアの提案などを多く聞くようになりました。よりよい大学作りのために、学生一人ひとりが取り組んでいる事を実感でき、とても嬉しく思います。

自治会長の任期も残り半年となりましたが、このような皆さんの意見を大切に、よりよい大学作りを目指して頑張っていきたいと思っています。



大学祭のお知らせ

第6回看護大学祭

WA!! 2005看大祭 10/29(土)、30(日)

♥ 講演会 (30日10時30分～ 場所:講堂)

演題 「いのち輝き…性・生・死の学びを共につくる」

講師 金沢市立西南部小学校教諭 金森 俊朗 氏

「いのちの授業」を実践されている金森俊朗先生を講師に迎え、ご自身の経験をもとにした、その時その場でしか聞くことのできない講演をしていただきます。この機会に皆さんも自分の性・生・死について考えてみませんか?たくさんの方のお越しをお待ちしております。

♥ 今日あなたも看護学生!! Let's 看護体験

(29日・30日13時～15時
場所: 2階 基礎看護学実習室 母性・小児看護学実習室)

私たちが学校で日頃学んでいることを学外の皆さんに実際に体験してもらい、知ってもらおうという企画です。

体験内容

- * 血圧測定体験
- * 高齢者体験
- * 妊婦・赤ちゃん抱っこ体験
- * 車椅子・ストレッチャー体験

♥ 映画上映

中田 新一:監督
海老名 香葉子:原作

「あした元気にな～れ！」

戦争の混乱期を懸命に生き抜いた子供たちの姿を通して、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、親の愛情の尊さ、そして、前向きに生きることの大切さを伝える映画です。つらい状況にありながらも家族に愛されていたという記憶を支えに、前向きに生きていこうとする主人公の姿は私達に希望と勇気を与えてくれます。

タイムスケジュール

1日目

- 9:00 開会式
- 10:00 カラオケ大会①、お化け屋敷
- 10:30 「明日元気にな～れ！」上映①
- 12:00 ソーラン節
- 13:00 カラオケ大会②、看護体験
- 13:30 「明日元気にな～れ！」上映②
- 15:30 ダンス発表
- 16:00 音楽サークル・合唱、ソーラン節
- 17:00 スタンプラリー抽選会

2日目

- 10:00 バンド演奏、JICAワークショップ、お化け屋敷
- 10:30 講演会、ソーラン節
- 12:00 音楽サークル・合唱
- 13:30 「明日元気にな～れ！」上映③
看護体験、ピンゴ大会
- 15:00 ダンス発表
- 15:30 スタンプラリー抽選会
- 16:00 ミスユニナース
- 16:30 閉会式

その他、
模擬店、フリーマーケット、子供部屋、
映画サークルによる映画上映、華展、絵画展
などは両日開催しています。

今年のコンセプトは看護大を知ってもらおう・つなげよう地域の輪・みんなの看大祭です。みなさんぜひお越しください!

図書館から

図書館OPAC(所蔵検索システム)更新について

今年度、5月より進めておりました図書館システム等の更新が終了し、利用者用端末機が新しくなりました。更新作業中は、臨時休館等で利用者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。7月よりシステムを一新し、より機能的に便利になりましたので、文献検索等でご利用いただければ幸いです。

また、当館OPAC(所蔵検索システム)で、石川県立大学図書・情報センター(野々市町)の蔵書も検索できるようになりました。検索結果画面で、**所蔵館**が石川県立大学図書・情報センターと表示される図書につきましては、カウンター職員にお尋ねください。ご利用を希望される場合は、後日、石川県立図書館の相互協力システムを利用して、図書をお取り寄せすることができます。

今後とも、当館の利用につきまして、ご意見等がありましたらお聞かせいただければ幸いです。

OPAC 検索結果画面

図書<BB00038125>	広がれ環境のわざと心 / 環境省編 ヒロガレ カンキョウ ノワザト ココロ
標題および責任表示	東京 : ぎょうせい, 2004.5
出版・頒布事項	15, 282p : 挿図 ; 30cm
形態事項	4324073686 価格/入手条件:1524円+税
国際標準図書番号	BB00008507
書誌構造リンク	奥付の編者: 環境省総合環境政策局環境計画課
注記	平成15年度における主な環境問題の動き: p278-281
注記	BA67185733
学情ID	日本語
本文言語コード	AU00019093
著者標目リンク	AU00024834
著者標目リンク	ND08519.1
分類標目	NDSLH環境問題 カンキョウモンダイ//K
件名標目等	

所蔵一覧(2件)

No.	巻号	所蔵館	配置場所	資料ID	請求記号
1.		石川県立看護大学	開架1階	1043882	519.1/Ka56/2004
2.		石川県立大学図書・情報センター	開架	110453982	519.059/Ka56/2004

地域ケア総合センターから

地域ケア総合センターは地域に開かれた看護大学として機能を果たすための附属機関として設置され、看護・福祉・介護専門職のレベルアップに貢献するための活動をしております。今年度の研修の一部を紹介させていただくと、7月31日に新臨床看護師等実践力向上研修として東京大学大学院助教授水流聡子先生を、8月6日には県民の方々が介護保険制度の理解を深めてもらうために、看護・介護講演会としてNPO法人サポートハウス年輪理事長安岡厚子先生を、8月26日には看護師等養成施設教員研修として三育学院短期大学教授本郷久美子先生をお迎えして講演会を行いました。8月20日に行われた当大学の先生の公開講座「介護と介護予防」を含めると、県内から延べ245人の方々の参加を得て、各講演とも盛況のうちに無事終了することが出来ました。参加された方々からは、講演を聞いてとても良かったとの感想も聞いております。また、10月には国際母子講演会と題しまして英国ハートフォードシャー大学教授サリー・ケンドール博士をお招きしての講演も予定しております。(このキャンパスネットが皆様のお手元に届く時にはケンドール博士の講演は終了しております。)地域ケア総合センターは大学と地域との連携を促進する総合窓口となっておりますので、皆様からのセンター事業等への要望等があればどしどしお寄せ下さい。

キャンパススケジュール 2005年度後期

10月3日(月)	後期授業開始
10月3日(月)~11日(火)	後期履修登録受付(ただし、2年次は10月17日(月)~21日(金))
10月29日(土)・30日(日)	大学祭(看大祭)
12月26日(月)~1月6日(金)	冬季休業(ただし、4年次は12月27日(火)~1月6日(金))
2月25日(土)	入学試験(前期日程)
3月12日(日)	入学試験(後期日程)
3月13日(月)~	春期休業
3月18日(土)	卒業式・終了式

発行 ● 石川県立看護大学広報委員会

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
 TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
 URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>
 E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp